

## ヨハネ 16 章 16-24 節 「悲しみは喜びへ」

16節の「しばらくすると、あなたがたはもうわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる。」とイエスさまが弟子たちに話しても、弟子たちは理解できませんでした。今は分からない。でも、忍耐して聞き続けていくなら、必ずわかるようになる。あなたのうちにおられる聖霊が、あなたをすべての真理に導いてくださるように、と。

イエスさまは、そんな弟子たちの様子を見て、説明しようと思いました。「あなたがたは泣いて悲嘆に暮れるが、世は喜ぶ。あなたがたは悲しむが、その悲しみは喜びに変わる」と。この後、イエスさまは十字架につけられ、弟子たちは嘆き悲しみます。弟子たちとは逆に、喜ぶ者がいました。それは、「世」です。「世」とは神に敵対する世のことです。しかし、弟子たちにとってイエスさまが十字架で死なれることで嘆き悲しみますが、その悲しみが喜びに変わります。復活という死からのよみがえりが、与えられたからです。ここでイエスさまは、弟子たちの質問に明確には答えませんでした。それは、弟子たちが聞く耳を持っていないことを、イエスさまはご存じだったからです。彼らは悲しみでいっぱいでした。だから、あえて詳しく話さなかったのです。私たちもそうでしょう。いろいろ知りたい、聞きたい、でも聞く耳を持っていない。説明してほしいわけじゃない。ただ、その気持ちに寄り添って、受容してほしい。この時の弟子たちに必要だったのは、説明ではなく約束でした。だからイエスさまは弟子たちに約束を与えたのです。「その悲しみは喜びに変わる」と。

それはどのような喜びなのかが、23、24節に語られています。「その日」とは、聖霊によってイエスさまが再び会って下さり、今の苦しみが喜びに変わる日です。聖霊の働きによって、父のもとに行かれたイエスさまが戻って来て、再び会って下さることによって、私たちにはそのように、イエスさまによる救いを信じ、父なる神の愛に信頼して生きることができるようになる、そういう喜びが与えられるのです。イエスさまが十字架の死と復活を経て神さまのもとに行かれたことによって、「天の父よ」と呼びかけ、「主イエス・キリストのみ名によって」祈ることができるようになったのです。主イエスの御名によって父なる神に祈り願うことができること、それこそが、「その日」に聖霊によって私たちの内に満たされる喜びです。その喜びを私たちから奪い去ることができる者はいないのです。

あなたがたは今苦しんでいるが、聖霊によって私があなたがたに会うその日には、その苦しみが喜びに変わる、とイエスさまは私たちに語りかけてくださっています。祈ったからといって、今の苦しみがすぐに喜びに変わるわけではありません。目に見える苦しみの現実、変わらずにここにあるのです。しかしその中で私たちは、聖霊によって、主イエスによる救いを信じて、本当に必要な恵みを与えて下さる神の愛に信頼して、主イエスの名によって父なる神に祈り願うことができるようになるのです。苦しみの中でそのような祈りを祈っていくことができるなら、その苦しみが虚しいものではなくなります。苦しみの中にも希望が示されていくのです。苦しみの中でこのように神に信頼して祈ることができるようになることこそ、聖霊によって与えられる喜びです。聖霊のお働きによって、必要な恵みを必ず与えて下さる神の愛に信頼して、主イエスのみ名によって祈り願うことができる喜びに満たされて歩んでいきたいのです。